

このコーナーではK-Car Meetingに、ゆかりのある方々に登場頂き、思い出話しや、今後のK-Car業界への想いや、時には裏話などを語って頂いております。

語って頂いたメッセンジャーは、次号へとバトンをつないで頂きます。その名の通り『メッセージリレー！』

記念すべき第1回目は、K-Car Meetingの元祖「K-CARスペシャルミーティング」開催立ち上げより支援頂きましたテイクオフの米田さんよりスタートしました。

今回は、第7回目です。みやびオートの廣岡さんよりバトンが渡されたのは！KCテクニカの藤山さんです！

次は貴方の番かもしれません。お楽しみに！

Message Relay

第7回

みやびオート廣岡さん、バトン受け取りました！ KCテクニカの藤山と言います。

1988年（昭和63年）に京都の伏見で『京都テクニカ』と言う屋号で軽自動車のSHOPを開業しました。もうかれこれ30年以上が立ちました。

開業のきっかけを作ってくれたのは、元祖（強力馬力自動車屋）のテイクオフさんの営業の人でした。

（名前は出しませんが（^_^）感謝してます！）

開業前は軽自動車専門の中古販売店だったのですがそこにSHOP開業のお話を頂いたのが初めてでした。

当時は、セントラルサーキットも無かった時です。

セントラルサーキットが出来たのは1996年9月ですから、そのまだ前ですね。

開業当時はK-CARのレースもほとんど無かったように記憶しています。

みやびオートの廣岡さんやノールウオークの角矢さんたちと知り合ったのはセントラルサーキットが出来てからでした。



「関西のK-CARレースはセントラルサーキットから始まったと言ってもいいと思います」

セントラルが出来てからは軽自動車のレースも凄く台数が集まるようになり、参加している方たちと、これなら（公式戦）JAF戦のレースでも成り立つのでは無いかとJAF戦を開催した事が有りましたが、なんと参加台数はKCテクニカ（スバル・ヴィヴィオ）とテイクオフさん、あと数台だけのエントリーで成立せず「シビックと混走レース」になった事が有りました「主催側は問い合わせは凄いですが国内Aライセンスが無い」

参加台数が少なかった原因は「国内Aライセンス」でした。当時から軽自動車は草レースが主でしたからほとんどの参加者はこれがネックとなったようですね！

懐かしいお話でもあり日本のモータースポーツの現実でも有りますモータースポーツの底辺を旨く育てて来なかった日本の現実かな？。

それでは、

K-CAR Meetingがいつまでも続きますように

みんなで盛り上げていきましょう！！

次回は、キャドカーズの石川さんお願い致します！

